

2023 1.1 vol.1022

JA全農 **ウィークリー** **WEEKLY**

謹賀新年



耕そう、大地と地域の未来。JAグループ

全農

令和5年年頭会長あいさつ

食と農を 未来へつなぐ



経営管理委員会 会長
菅野 幸雄

あけましておめでとうござい
ます。

謹んで新春のごあいさつを申
しあげます。

令和5年の年頭にあたり、全国
の組合員、JA、県連および関係
の皆さまから旧年中に賜りまし
たご支援、ご協力を厚くお礼を申
しあげます。

昨年も地震や雹、大雨や台風な
どの自然災害や、鳥インフルエン
ザなどの重要家畜疾病に全国各
地で見舞われ、多大な農業被害が
発生いたしました。被害に遭われ
た皆さまに心からお見舞い申し
あげますとともに、本会は、共に
助け合うという協同の理念の

と、一日も早い復旧を支援してま
いります。

現在、コロナ禍での各国の輸出
規制やロシアのウクライナ侵攻、
気候変動や世界の人口増加など
により、肥料原料や飼料穀物と
いった農業に必要な資源価格の
高騰が続いています。円安も加わ
り、エネルギーや食品などの物価
が上昇し、日本経済や国民の暮ら
しにも影響を与えています。

一方、国内農業は生産者の減
少や高齢化、耕地面積の減少な
ど生産基盤の縮小が続くなか、
生産資材の高騰により農業経営
は厳しさを増しており、我が国
の食料安全保障の土台が揺らい
でいます。

また、SDGsや脱炭素化など
世界的に環境問題への意識が高
まり、農業分野では、昨年「みど
りの食料システム法」が施行され
るなど、食料・農業を取り巻く情
勢は大きな転換期を迎えていま
す。持続可能な農業による食料の
安定供給に向けて、JAグループ
が果たすべき役割はますます大
きくなっております。

このようななか、本会は、203
0年の全農グループのめざす姿
を「持続可能な農業と食の提供の
ために、なくてはならない全農」
であり続ける」と定め、今次「中
期計画」（令和4～6年度）にお
いて、6つの全体戦略①生産振
興、②食農バリューチェーンの
構築、③海外事業展開、④地域共
生・地域活性化、⑤環境問題など
社会的課題への対応、⑥JAグ
ループ・全農グループの最適な
事業体制の構築」を掲げ、事業の
拡大に取り組んでおります。

本会は、現下の情勢を踏まえ、
今次中期計画をさらに発展させ、
生産性の向上や国内資源の有効
活用、輸入原料の調達力強化や輸
出拡大、消費者理解の醸成などを
着実にすすめて、経営理念にござ
います「生産者と消費者を安心で結
ぶ懸け橋」として、食と農を未来
へつないでまいります。

本年も引き続きご指導とご協
力を賜りますようお願い申しあ
げますとともに、皆さまのご健勝
とますますのご発展をお祈り申
しあげます。



生産者と消費者を 安心で結ぶ懸け橋に ～オールジャパンでの挑戦～

全農経営管理委員会

菅野 幸雄 会長

俳優

貫地谷 しほりさん



ウクライナ侵攻による 物価上昇の影響

菅野幸雄会長 あけましておめでとうございます。

貫地谷しほりさん あけましておめでとうございます。今日は一消費者として、農業についてお話を聞きしたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

菅野会長 こちらこそよろしくお願いします。さっそくですが、昨年2月からロシアによるウクライナ侵攻の影響によって物価が上昇しました。農業では肥料や飼料・エネルギーをはじめ、さまざまな資材を海外から輸入し、それが生産に結びついています。大切な食料をつくるための資材の高騰が生産者に影響を与えていることをご理解いただきたいですね。

貫地谷さん 消費者の立場としては、物価の高騰は喜ばしいことではありませんが、生産者さんたちも生活していかなければいけませんから、すごく難しい局面にきているのですね。

菅野会長 人間が生きていく

ために食料は不可欠ですが、消費者の皆さんにとって食料そのものに手が出にくいような状況は、われわれJAグループとしても生産者としても本意ではありません。政府にも対策をお願いしていますし、われわれも国産の飼料原料生産や未利用資源の肥料化など、オールジャパンで挑戦していきたいと考えています。

安全・安心な生産物を 消費者へ

貫地谷さん 昨年は、全農さ

んが創立50周年を迎えたとお伺いしました。これまでどのように歩まれてこられたのでしょうか。

菅野会長 全農の一番の使命は、国民の皆さんへおいしいもの、安全なものを安定して供給することです。それと同時に、日本の農産物の品質の良さと食文化のすばらしさを海外へ発信していくことも使命として取り組んできました。

貫地谷さん おっしゃるように、日本の食材は安全・安心というイメージが強いですが、ぜひこれからの50年も継続してほしいですね。

菅野会長 安全・安心という面では、野菜でも果物でも、いつ肥料をまいて、いつどんな農薬を散布したなど、生産履歴を記録する取り組みも行っていきます。

貫地谷さん そうなんです。最近では、生産された方のお名前や顔写真がついた商品が増えましたし、産地直送とか朝採れと書かれたものも増えて、すごくおいしそうに見えます。売り切れていたりすると、な

んで買えなかったんだろうって悔しくなります。
菅野会長 そこがビジネスのコツかもしれませんね(笑)。各地の直売所でも、この野菜はA



さんが作ったもののおいしい、これはBさんがおいしいというように、ファンがついていきます。そういう方の野菜が直売所に並ぶ日は、開店前から行列になることもあります。おいしいものは、消費者の皆さんが自分で見つけるんですね。

貫地谷さん 私も太るなら、おいしいものを食べて太りたいと思っています(笑)。

菅野会長 それはたしかにそうですね(笑)。俳優さんは体力づくりのためにもしっかりと食べないといけませんね。

みんなでお米を食べるのが一番おいしい

菅野会長 貫地谷さんは昨年



8月に舞台に出られたそうですね。

買地谷さん 井上ひさしさんの戯曲で『頭痛肩こり樋口一葉』という舞台をやらせていただきました。演劇をはじめエンターテインメント界はずっとコロナに振り回されていますので、最後まで乗り切れるのか不安でしたが、この作品は、私の血となり肉となる仕事になるだろうと思ってお引き受けしました。おかげさまで、地方公演もすべてやりとげることができて、本当によかったと思っています。昨年は、この目標が達成できて、とても豊かな一年でした。

菅野会長 お客さまの反応はいかがでした？

買地谷さん 大阪は笑いに厳



しいですね(笑)。一方、岡山県の津山市では、何をやっても笑ってくださいって、すごい芝居をしてみましたんじゃないかと錯覚するほどでした。

菅野会長 笑いにも地域性があるんですか。

買地谷さん そうなんです。私たちは本当にお客さまに支えられているんだなと、舞台を通してつくづく感じます。

菅野会長 従来でしたら、地方公演では皆さんでその土地のおいしいものを食べに行ったり、地酒を堪能したりできただしょう。

買地谷さん 昨年の舞台で

は、先輩俳優さんが、お釜とミキサーを持ってきてくださったんです。現地でお野菜や果物を買ってきて、スムージーを作ったり、ご飯を炊いてみんなで食べたのはすごく楽しかったです。

菅野会長 みんなでお米を食べる、これが一番おいしいんですよね(笑)。

買地谷さん おっしゃる通りで、本当においしかったですし、身も心も健康的に過ごせました。

次世代の担い手へ 技術の継承

買地谷さん 今は農業をやり

たいという若い人が増えているそうですね。

菅野会長 そうですね。全農は担い手の育成にも力を入れていきます。たとえば、しばらく誰も手入れをせずに荒れてしまった耕作放棄地をきちんと整備して、農業のプロを指す若い方に入ってもらっています。ドローンを活用して

農業を散布したり、肥料のタイミングをAIに分析させたり、必要な農機具の安全な使い方、必要農機具の安全な使用方も研修したりして、効率的な農業ができるような環境を後継者に提供しています。

買地谷さん 農産物を安定的

に供給するという大切な役割の中で、生産者さんの負担が軽くなるのは、すごく良いことだと思います。

菅野会長 そうですね。スマート農業を進めることは体が楽になるだけではなく、空いた時間で農作物に他の手をかけることができるようになります。生産する品目を少しでも増やせるようにローテーションを一緒に考えて、全体的な収益が上がるようにアドバイスしながら、若い方に託しているところですね。

買地谷さん きちんと収入につながる仕組みができていますね。今は一年中なんでも食べられますが、それは生産者さんあつてのことですし、すごいなあ、ありがたいなあいつも思っています。若い人たちにもぜひ続けてほしいですね。

菅野会長 そうですね。他の産業でもそうですが、今は団塊の世代が引退する時期にきていて、技術の継承が問題になってきています。農業の現場でも、高齢の生産者さんたちは戦後から培ってきた素晴らし



い技術を持っています。自分が食べる分は気楽に作ってもいいですが、消費者の皆さんにお金をいただいで販売しようとなると、ある程度の技術が必要です。われわれは名人の栽培方法をデータベース化して、研修中の若い方にノウハウを教えることも始めています。

貫地谷さん 私も以前はお芝居の世界のなかで、自分の気

持ちをどこまで本物に持つていけるかが大事だから、技術は必要ないと思っていたんです。でも、リアルに表現するためには、技術が感情を押し上げてくれるものと気づきました。やっぱりすてきな俳優さんたちは、たくさん技術をもっていますので、見ていてすごいと思う演技は自分でも試したくなります。

菅野会長 農業も農産物という作品を作るという意味では、俳優さんと通じるものがありますね。いくら名人のデータベース通りに作ろうとしても、基本的なことしか分かりませんから、どのタイミングでどんな工夫をしていくのか、生産者は研究を重ねる必要があります。先輩たちは引き出しをたくさん持っていますが、その引き出しをあけてくれるかどうかは、こちらが一生懸命やっているかどうかに関わってきます。この名人に追いつこうと一生懸命に勉強して努力して、それでも「どうしてもここが分からない、教えてくれない」とお願いすれば、誰も「知らんぞ」とは言いませんし、教えてくれるはずですよ。

貫地谷さん 私は10代からこの仕事をしていきますので、い子でいなければいけないという感覚が自分をしめつけていた時もありました。かつて『ちりとてちん』で一緒に渡瀬恒彦さんから、誕生日にお手紙をいただいで、「貫地谷がこれからすることは、惑うことです」と書いてあったんで

す。仕事でも日々の生活でも、これでいいのか、これはどうなんだろうと迷いながら手探りで進んでいくことが、すごく大切なんだと、渡瀬さんの言葉から学び取りました。

菅野会長 技術の向上のためには、貫地谷さんもわれわれも、迷ったり悩んだりしながら進んでいくしかありませんね。私のふるさと、愛媛県はミカン栽培が盛んですが、愛媛のミカンとして共同販売する場合は、みんなライバルだけど仲間なんです。ライバルがないと技術の向上はありません。今年よりは来年、来年よりは再来年とステップアップできるように仲間同士で切磋琢磨して技術を高める、その繰り返しです。

貫地谷さん 皆さんで努力しあって、農産物の品質を向上させているんですね。

国産産への挑戦と地域の活性化に向けて

菅野会長 私の印象ですと、貫地谷さんは時代劇がお似合いなだなどと思ってるんです。

貫地谷さん ありがとうございます。実は1月からNHKのドラマ『大奥』に出演させていただいています。男女逆転バージョンの大奥で、私は徳川吉宗に仕える加納久通の役です。脚本も素晴らしいですし、おもしろい作品に仕上がっていると思いますので、ぜひご覧いただきたいです。

菅野会長 それは楽しみです。必ず拜見します。

貫地谷さん ありがとうございます。菅野会長は、今年ほどんなことに挑戦したいとお考えですか？

菅野会長 チャレンジしなければいけないことがたくさんあります。ご存じのように、日本は資源がありませんから、農畜産物の生産に必要な資材は輸入に頼らざるを得ません。肥料や飼料の世界的な調達競争は激しくなってきました。が、全農50年の歴史の中で、海外からの集荷網を強化し、取引先とも長く信頼関係を築いてきていますので、これからも国民の皆さんに安定的に食料を提供していけるように努力していきます。



ゲストプロフィール

かんじや・しほり 1985年東京都生まれ。映画『スウィングガールズ』で注目を集め、NHK連続テレビ小説『ちりとてちん』で初主演。主演映画『くちづけ』でブルーリボン賞主演女優賞受賞。主な出演作に、ドラマ『女くどき飯』、舞台『ガラスの仮面』『ハムレット』など。大河ドラマは『風林火山』『龍馬伝』『八重の桜』『おんな城主 直虎』に出演。NHK ドラマ10『大奥』（8代・徳川吉宗×水野祐之進 編）が1月放送予定。また、主演映画『オレンジランプ』が2023年公開予定。

貫地谷さん 今まで当たり前のようにスーパーで並べられているものを買って食べていましたが、改めてたくさんの人によって自分の命が支えられていることを感じます。生きていくためには食事が不可欠ですから、自分が口にするものはどこから来たものなのか自分の目でよく見て、きちんと理解したうえで食べて、健康に生きていきたいです。

菅野会長 これからは国産をさらに推進して、国内で消費するものは国内で作ろうという「国産国産」を強化して取り組んでいきます。それから、日本には生産から販売ルートまで基盤がしっかりされている優秀な企業がたくさんあります。それらの企業とも連携して、新しい商品づくりに取り組んでいきます。たとえば、特定の地域でしか作られていない日向夏を伊藤園さんと連携してジュースにしたことで、日向夏を全国にPRできます。自分が作った果物が全国に知られることで生産者さんの喜びにつながっていますし、地域も活性化します。生産者と消費者を安心で結ぶ懸け橋にな

るのがわれわれ全農の役割です。次は50年に向けてさらにレベルアップしていきたいと思っています。

貫地谷さん 安全・安心の全農さんとコラボした商品をつくさん目にする機会が増えるのは、とても楽しみです。すてきな商品開発を期待しています。今日は楽しいお話をありがとうございました。

菅野会長 こちらこそ、ありがとうございます。これからも身体に気を付けて頑張ってくださいね。テレビの前で応援しています！



貫地谷しほりさんから

お年玉プレゼント

4
名様

貫地谷しほりさんのサイン色紙と写真を4名様にプレゼントいたします。ご応募をお待ちしております。

応募方法 件名に「貫地谷しほりさんお年玉プレゼント」、本文に郵便番号、住所、氏名、年齢、所属JA、電話番号、「JA全農ウィークリー」の感想をご記入の上、メールでご応募ください。

応募先 JA全農ウィークリー
zz_zk_zennohweekly@zennoh.or.jp

締め切り 令和5年1月13日(金)23時59分

*応募者多数の場合は抽選で当選者を決定いたします。また、当選の発表はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます。

*いただいた個人情報は、プレゼントの発送にのみ使用いたします。



新春初夢プレゼント

全国から一押しの逸品を取りそろえました。ふるってご応募ください。

おらほの逸品館

秋田県産「サキホコレ」

5kg (2022年産)・・・3800円 **3名様**

2022年産から本格デビューした、米どころ秋田の傑作「サキホコレ」。ふっくらとした粒立ちとかむほどに広がる甘い風味が特徴の、日本人の遺伝子に直接響くような、王道を極めたうまさです。秋田の地力に満ちたこの米とともに、日本の食卓に、幸せが咲き誇りますように。



あつめて、兵庫。

新鮮野菜セット小

8種類・・・2590円 **3名様**

兵庫県神戸市産の野菜をお届けします。野菜のプロが、その日入荷した農産物の中から、一つ一つ選別し、箱詰め。直売所店頭でもすぐに売り切れる人気の生産者の農産物を厳選しています。購入者からは、「いろいろな野菜の詰め合わせで、ワクワクしました」「とても新鮮でおいしいセット」など多くの高評価レビューをいただいています。今回は当ショップ人気の商品をお届けします。



飛騨美濃うまいもん広場

レトルトカレー「飛騨牛カレー」

6個セット・・・5540円 **10名様**

岐阜県が誇るブランド和牛「飛騨牛」をふんだんに使用した、こだわりのプレミアムレトルトカレーです。ごろっと存在感のあるお肉は舌の上でとろけるほど柔らかく、じっくり煮込んだこだわりのカレーは味わい深い風味が自慢の一品。お子さんから大人まで、みんなで楽しめます。



おきなわちゅら島

【機能性表示食品】中性脂肪が気になる方のシークワサー

1ケース(24本入り)・・・7820円 **3名様**

沖縄県産シークワサー果汁を100%使用した、飲み切りタイプのドリンクです。シークワサーは、沖縄では大自然が色濃く残る「やんばる」と呼ばれる北部の地域を中心に栽培される豊かな風味と力強い酸味が特徴の沖縄柑橘です。すっきりシャキッと目覚めたい朝、働き盛りの皆さまにオススメです。

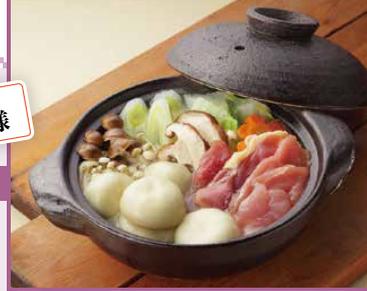


西のおいしさこだわりマルシェ (JA西日本くみあい飼料株式会社)

鬼北熟成きじ鍋セット

4690円 **3名様**

愛媛県鬼北町の特産品である「きじ肉」を使用した「鬼北」熟成きじ鍋セットです。一口サイズにカットしたキジ肉と、キジ肉のミンチを使用したキジ団子、キジの骨からとったスープがセットになっています。キジ肉からもうま味がでるので、縮めうどんや雑炊までお楽しみいただけます。



新鮮大好き徳島

【無洗米】徳島県産米あきさかり

5kg (2022年産)・・・3470円 **3名様**

徳島県の奨励品種「あきさかり」は、モチモチとした粘りと程よい甘みが特徴の、今徳島県内で生産拡大が進んでいるお米です。2020年9月から販売を開始した「無洗米 徳島県産あきさかり」は、徳島県本部のパールライスセンター(精米工場)で無洗米加工をしているため、研がずに炊けます。簡単便利な上、研ぎ水が出ないので環境にも優しい「無洗米 徳島県産あきさかり」をぜひご賞味ください。



和歌山県 JAわかやま

桃ほのか Wakayama Ginger Ale

1ケース(24本入り)・・・5000円 **5名様**

ふわりと香るみずみずしい桃の風味を感じられるジンジャーエールです。桃の甘みとピリッとしたショウガの後味をマッチさせました。甘さの中にさっぱりとしたキレがあり、スッキリとした飲み心地はどなたでも飲みやすい、やさしい味わいのジンジャーエールです。



応募方法

件名に「JAタウン新春プレゼント」、本文に郵便番号、住所、氏名、年齢、所属JA、電話番号、ご希望の商品名、JA全農ウィークリーの感想をご記入の上、メールでご応募ください。

締め切り

令和5年1月13日(金) 23時59分

※応募者多数の場合は抽選で当選者を決定いたします。また、当選の発表はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます。※いただいた個人情報は、プレゼントの発送にのみ使用いたします。

応募先

JA全農ウィークリー [mail] zz_zk_zennohweekly@zennoh.or.jp

JA全農のインターネットショッピングモール

▶JAタウンはこちらから <https://www.ja-town.com>
▶お問い合わせは shop@ja-town1.com